

条幅部自由参考

7月25日正午必着

明石春浦先生書



山空樵斧響。
ひびくたしをてらす
日落潭照樹。

隔嶺有二人家。
かみきらかじてかぜはなをうごらす
川明風動花。

(宋・陳與義)

山からおりて来たころは既に日の暮れ方であった。

明石幸子書



夏雨染成千樹綠。
かすめなすまにしゆのみどり
暮風散作一江煙
ほふうさんしやいづうのけむり
(錢惟善)

夏の雨は樹々の緑をよみがえらせ、
夕暮の雨は川一面にもやを敷く。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



森戸春濤書

虚心處冲黙 (王恭) 虚心無私。

清雲却炎暉 (王榮)

清雲炎暉を却く。

涼しげな雲が夏の暑い日ざしを無くしてくれた。

蒼蒼山上松 颯颯松根雨
松子落空山 朝來不知處

(朱彝尊)

蒼々たる山上の松 颯々たる松根の雨
松子空山に落ち 朝來處を知らず

山上の松は青々とした色を呈し、その根かたに颯々と雨がふりかかり、松子(松ぼっくり)が音もかすかに落ちて、朝まだきその行くえもさだかならぬ。

送陸羽

(皇甫曾)

陸羽を送る

皇甫曾

千峯待逋客 香茗復叢生

千峰 逋客を待ち 香茗 復た叢生す

採摘知深處 煙霞羨獨行

採摘 深處なるを知り 煙霞 独行を羨む

幽期山寺遠 野飯石泉清

幽期 山寺遠く 野飯 石泉清し

寂寂然燈夜 相思磬一聲

寂寂たり 灯を然す夜 相思うとき 磬一声

炭がまを夜見に行けば 垣の外に迫るがごとく 蛙きこえ來

(長塚 節)

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

西塔
方廟
似人

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

塔廟似
西方

隸書

塔廟似
西方

明石春浦先生書

草書

塔廟似
西方

行草書

塔廟似
西方

西郊蘭若

羊士諤

雲天宜北戸

塔廟似西方

林下僧無事

江清日正長

石泉盈掬冷

山實滿枝香

寂寞傳心印

無言亦已忘

西郊の蘭若

羊士諤

雲天 北戸に宜しく

塔廟 西方に似たり

林下 僧事無く

江清くして 日正に長し

石泉 掬に盈ちて冷たく

山実 枝に満ちて香し

寂寞として 心印を伝ふ

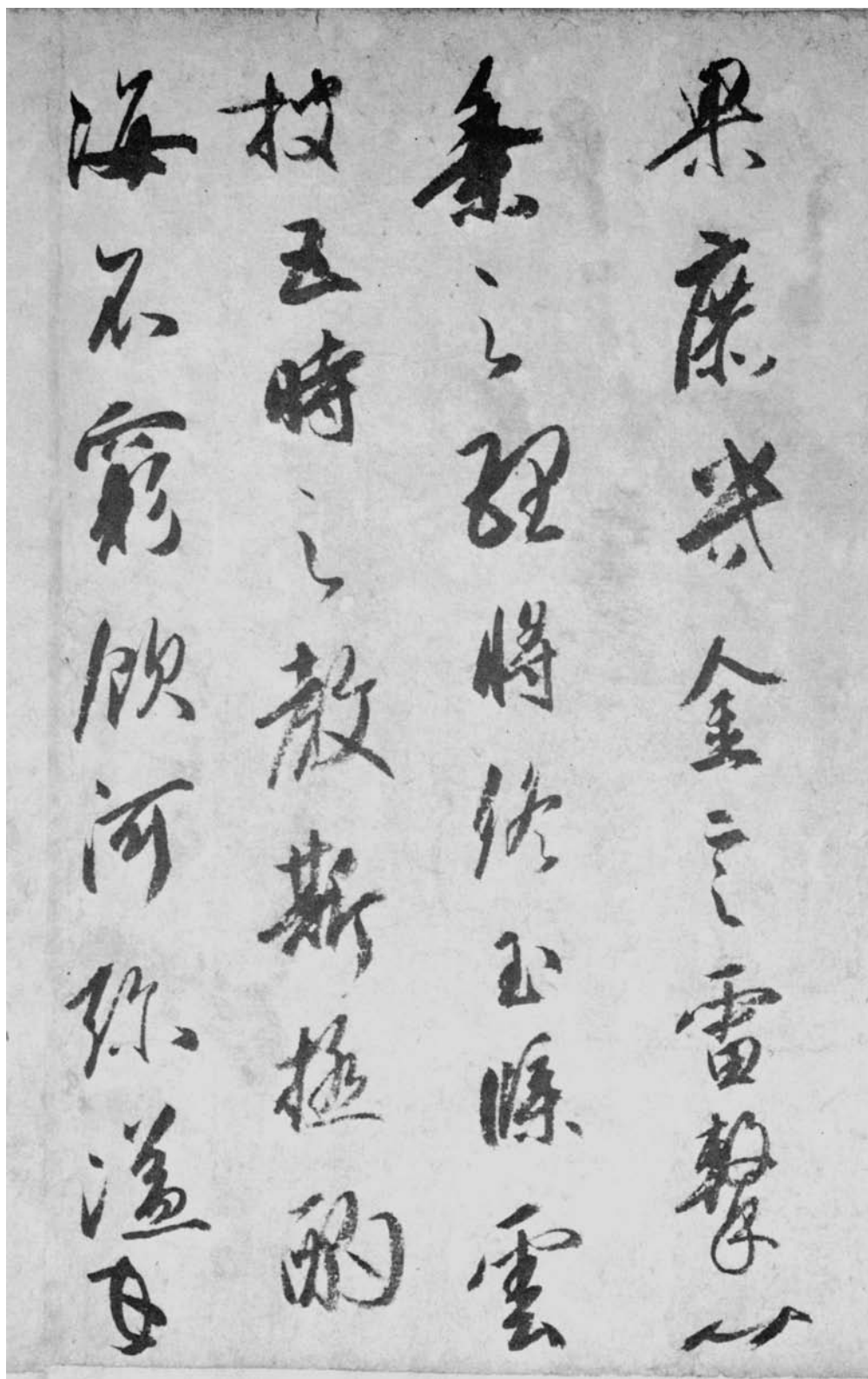
無言 亦た已に忘る

北向きの戸を開けば、雲たなびく空のまことよろしき景色 堂塔のたたずまいは、まるで西方浄土のよう

林の下に、僧たちは何の俗事もなく 江は清く澄んで、日は今や暮れなすむころ

岩石の間にわき出る泉、手にいっばいにすくえばひんやりと冷たく 山中の木々は、枝にいっばいに実をつけてかぐわし

い ひっそりとしずかに、仏心のしるしを伝え、ことば無しということすらをも、もはや忘れてしまった



(之) 果。庶幾金言雷擊。一乘之理將終。玉牒雲披。五時之教斯極。酌海不窮。飲河彌溢。甘



玉牒雲披きて、五時の教え斯に極まり、海を酌みて窮まらず、河を飲みて溢れ、

※このお手本は、叶先生がご病氣療養中にもかかわらずご揮毫いただいたものです。謹んでご冥福をお祈り申しあげます。



(一) 乗の理將に終り、

伝 橋逸勢・伊都内親王願文

三百年にも及ぶ平安時代の初期において、書道史上特にすぐれた能書家を三筆とよんでいる。嵯峨天皇、空海、橘逸勢がそれである。

橘逸勢に関する資料はほとんど残っていないが、延暦二十三年（八〇四）、平安朝が始まって最初の遣唐使船に乗り、空海や最澄らとともに中国留学をしている。渡唐中の彼は中国の文人たちに「橘秀才」とよばれたほどの秀才の持ち主であったらしいが、帰国してからはあまり出世しておらず、従五位下という位の但馬権守になったのは死ぬ二年前のことである。嵯峨天皇が亡くなって二日後の承和九年七月十七日、逸勢は謀反の疑いをかけられ、橘姓をうばわれて非人として伊豆へ流されることになってしまう。そして、その護送の途中で命を落とすという非業の最期をあげている。厳しい拷問にも屈服しない度胸のすわった剛毅な性格であった彼は、身に覚えのないことを認めるわけにはいかなかったのである。死後八年がたって彼の汚名は取り消され、正五位下が追贈された。また、その後も位の追贈が行われ、それと同時に生前の彼の才能も注目されるようになり、三筆と呼ばれるようになったのである。

伊都内親王願文は、桓武天皇の皇女伊都内親王が、母藤原平子の遺言によって、興福寺の東院西堂に香燈読経料として田畑等を寄進したときの願文である。逸勢の筆という確証はないが、俯仰法を駆使し、ねばり強く力感あふれ、躍動感のあるこの書は彼の気骨をあらわしていると言えよう。

※神仏への願い事を記した文。（春濤）



いずしちとう
伊豆七島

中学一年

雨宮春聲先生書



おんこちしん
温故知新

中学二三年

菅井松雲先生書

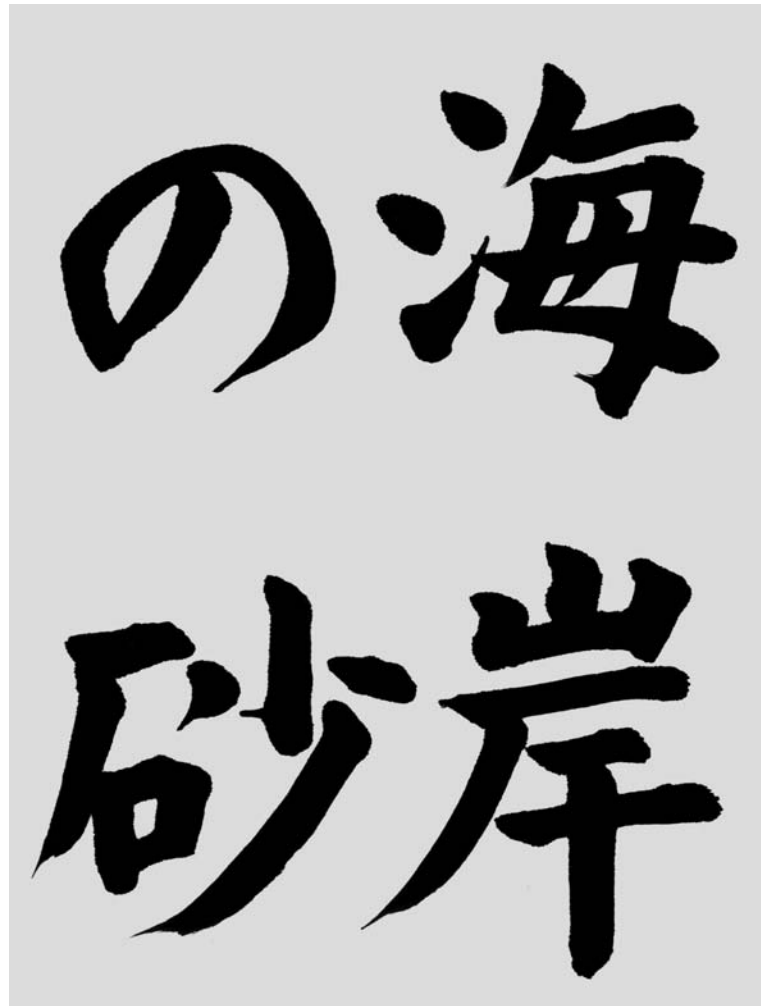
※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ほしあ
星明かり

小学五年

藤井良泰先生書



かいがんすな
海岸の砂

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



う ち ^{みず} 水

小学三年

細谷春誠先生書



^{きん} 金メダル

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

よ る 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

ひとで 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

きれいな海が見お
ろせる小高い公園

小学五年

科学の発展のために
力をつくす学者たち

小学六年

青い波のようによ
れる朝のなみ木道

中学

人は自分にも他人に
も寛大なれと教える

一般(級位)

ちはなの花散る里に通ひなば山ほととぎす響もさむかも(読人しらす) ※響もす: 鳴り響かせる。

ちはなの花散る里に通ひなば山ほととぎす響もさむかも

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

を	か
	わ
つ	で
り	
ま	さ
し	か
た	な

幼年

に	大
	き
か	な
か	ふ
る	ん
に	す
じ	い

小学一年

つ	す
け	な
た	は
小	ま
さ	で
な	
貝	み

小学二年

ま	や
れ	し
た	の
	木
南	に
の	か
島	こ

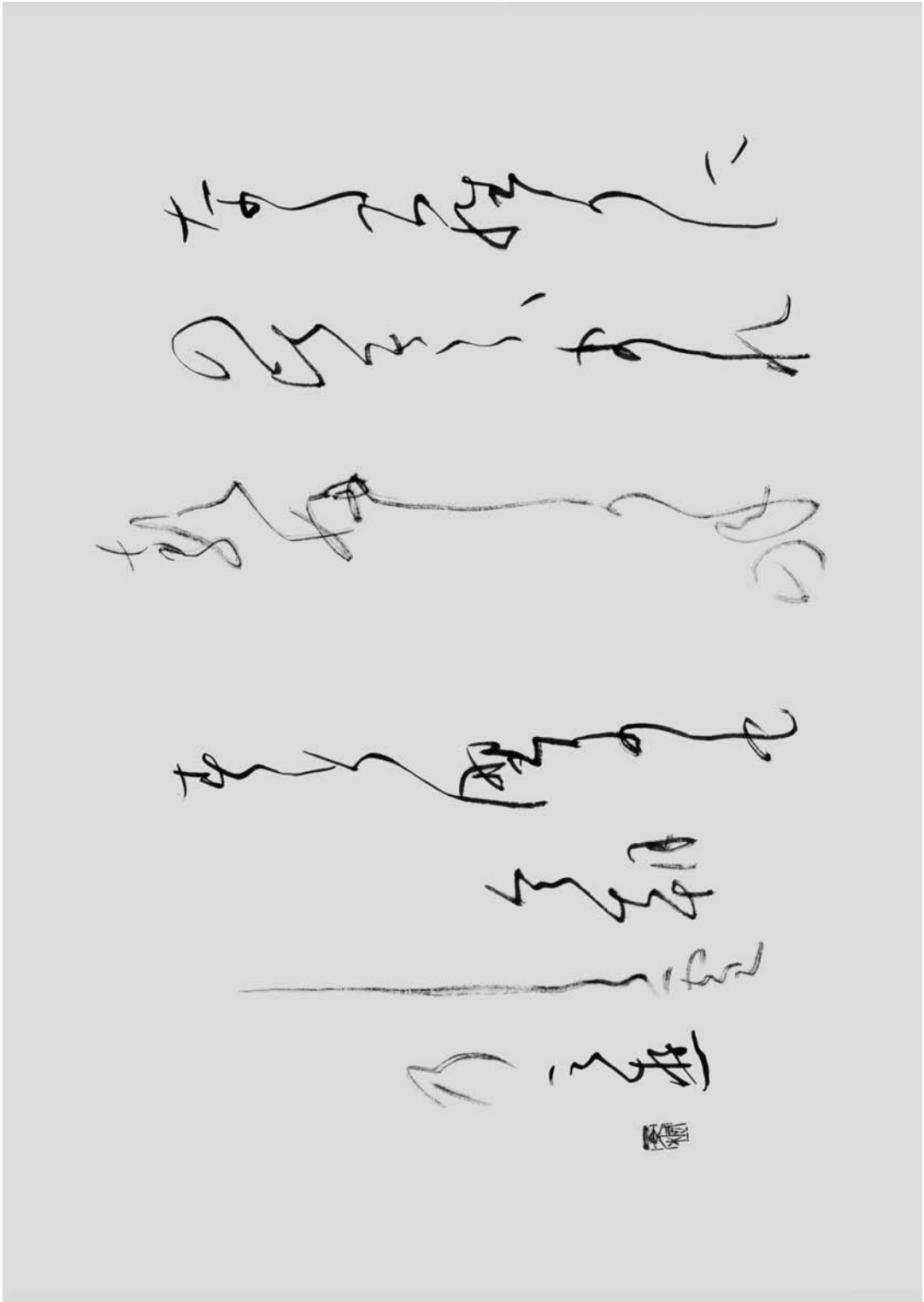
小学三年

ど	ヨ
む	ッ
ぼ	ト
う	で
け	太
ん	平
者	洋
た	に
ち	い

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



多羅可
 なるかに
 比
 八末
 類
 編
 可年
 春曾
 尔
 乃三遊
 のびきはまれるふじがねのすそ野にも今朝しら雪の見ゆ
 (若山牧水)

岩本景楓先生書